

「米原万里の世界」

「魔女のーダース」米原万里著 新潮文庫

「言葉が先か、概念が先か」という言語学と哲学とコミュニケーション論の根本に関する問題として「ラブホテルという概念の存在しない意識には、ラブホテルという言葉も存在しない。また、ラブホテルという言葉が存在しない意識にはラブホテルという概念も存在しない」因みに中国語では「色情旅館」という。

ベトナム語には類冠詞というのがあり、例えば樹木には必ず、その手前に樹木を表す「カイ」という類冠詞を付ける。その後には樹木の名前を付ける。柳は「カイ・リョウ」となる。同じように鳥類には「チム」を付ける。鳩は「チム・ボコ」である。ベトナム舞踊団の美女たちが、日本のお寺の前の広場で「チム・ボコ」「チム・ボコ」と歓声を上げて騒いでいた。

ロシア語で、ビールの銘柄の「恵比寿」は FUCK の命令形である。「カカア」は「うんこ」の事。日本映画で時々、変な所で笑いが起こる。「かつお」のイタリア語は「男根」の事である。

イギリス大使館は、世界中でその国の一番良い所にある。ソ連と日本の国交が回復した時、ソ連政府は気を使って、イギリス大使館の並びの一等地を推薦してきた。日本側は、その番地を知って即座に断った。その住所は「モスクワ市ヤキマンコ通り〇〇番地」であった。

=====

「不実な美女か貞淑な醜女か」 米原万里著 新潮文庫

万里がブラハの学校を休んだ時、同じ学校に行っていた妹に、他の日本人の少年が「お姉さんどうしたの？」と尋ねられ、「真ん中の耳が腫れているので、欠席した」と答え、その少年は一瞬、姉には耳が三つあるのかと思った。ロシア語でも英語でも中耳炎の事を「Inflammation of middle ear」と言う。

身体の臓器が会議を開き、退職願いを募る事にした。最初に、心臓が「もうへとへとだ、退職させてくれ」と言った。「お前が退職したら、皆がダメになるか

ら、もう少し頑張ってくれ」と他の臓器が思いとどませる。次に、肺が……、そして、胃と腸が……どれも却下される。その時、片隅から「私は、もうだめだ！引退させてくれ」とか細い声が聞こえる。「聞こえないぞ！もっと大きい声で言え」そして「発言する時は立って言いたまえ」と皆で非難すると、その臓器は「立てるほどなら、こんなことは申しません」と言った。

中小企業の社長が、アメリカへ行き「挨拶」をしなくてはならなくなり、英語が全くダメなので、通訳を頼んだ。挨拶の最後に、最後までは英語でやろうと思い、「ワン・プリーズ」(One please)と締め括った。通訳が「社長、最後のあれは何と言おうとしたのですか？」と聞いた所、社長曰く「ひとつ、よろしく」だよと言った。

フランスの客船に乗ったイギリス人が、昼食時に同席したフランス人に「Bon appetit」(ボナペチ)と言われ、「I am Anderson」と答えた。夕食時にも同じ挨拶をするので、英語の解かる船長に「あのフランス人は、何で同じ事を何回も聞くのだ。物覚えが悪いな」と言った所、船長に、フランスでは食事の前に言う「頂きます」という慣用語だと説明された。次に同席した時、イギリス人から「ボナペチ」と言ったら、相手が満面の笑みをたたえ、「アイ アム アンダースン」と答えた。

=====

「パンツの面目、ふんどしの活券」 米原万里著 ちくま文庫

ソ連では第二次世界大戦が終了するまで、下着のパンツは工業生産されていなかった。ネグルジェとコルセットだけであった。そして、パンツは手造りが基本だった。ロシア人は毎日パンツを取り替える習慣がない。従って、幼稚園で、「顔を毎日洗いましょう」という標語に、「パンツを毎日取り替えましょう」と書いてある。ル・モンド紙のアンケート調査によると、毎日パンツを取り替える男性は 3.14%だった。女性は毎日ビデを使う。ヨーロッパの男性は、最近までパンツを穿かなかった。その代り、ワイシャツが必要以上に長く、スリットが入っている。アイルランドでは、男性が民族衣装のスカートのようなものを穿くが、正式には、その下は何もはかない。西洋では、ズボンの発生・発展と乗馬と密接な関係がある。昔、中央アジアから伝わったものらしい。

外国語では、単数と複数を常に意識しなくてはならない。何故、一個と一個以上を区別し、五個と一万個の間に区別がないのか？と日本在住の外国人に聞いたら「日本語で山々とは、山が二つでないのは何故か？」 (2)

「何故、丘々と言わないのか？」人を数えるとき、ひとり、ふたり、と数え、三人以上になると、人(にん)となるのは何故か？と言われた。英語でメガネが複数で、ブラジャーが単数なのはなぜか、解かるかな？

=====

「ロシアは今日も荒れ模様」 米原万里著 講談社文庫
(小咄)

- ・共産主義は科学だそうだが、少なくとも自然科学では無いね。自然科学なら、人間に試す前に、動物実験をするからね。
- ・世の中に醜女は居ない。ウオッカが足りないだけだ。
- ・大酒のみの一生：人生の前半は肝臓を苦しめ、後半は肝臓に苦しめられる。
- ・「父ちゃん、酔っぱらうってどんなことなの？」「ここに、グラスが二つあるだろう。これが四つに見えたら酔っぱらったと言う事だ」「父ちゃん、ここにはグラスが一つしか無いよ」
- ・酔っ払い亭主を見かねた妻が詰め寄った。「あんた、ウオッカを取るの、私を取るの？ハッキリして頂戴」亭主曰く「その場合、ウオッカは何本かね？」
- ・節酒令が発布された時、酒屋の前に長蛇の列が出来、待ちきれなくなった労働者が「こんな事になったのも、ゴルバチョフの所為だ。クレムリンに行って奴を殴ってやる」と息巻いて出て行ったが、暫くすると戻ってきて「向うの行列の方が長かった」と言って肩を落とした。
- ・失業者は居ないが、誰も働かない。誰も働かないが皆給料は貰う。皆が給料を貰うが、何も買うものが無い。何も買うものがないが何とか食っている。何とか食っていけるが、皆不満を持っている。皆が不満を持つが、全員が選挙になると「賛成」と投票する。
- ・絶えず、他の国に蹂躪されて続けて来たグルジアの歴史と文化は、どこか朝鮮のそれと似ている。あるグルジア人が「民族の団結と固有の文化の拠り所となったのは、宗教でも武器でもない。それは「文字」と「言語」であった」と言った。ロシアで会った在日朝鮮人に「ドイツはナチスが戦争し、負けて東西に分割されたが、朝鮮は、日本が戦争し負けたにも拘わらず分割されたのは朝鮮であった。朝鮮の分割には日本の責任がある」と言われた。

- ・ 国家の名による殺戮と残虐行為が裁かれるのは、その国家が戦争に負けた場合だけである。
- ・ 質問：ソ連共産党が 70 年かけて出来なかったことを、エリツインはたった 3 年でやり遂げた。それは何故だろう？
 答え：国民に社会主義の良さを分らせたから。
- ・ 国際会議で、インド人、ロシア人を黙らせ、日本人を語らせる事が出来たら、議長として大成功である。
- ・ 来日したロシア人曰く「日本は資本主義の国ではない。日本こそ理想的な社会主義に一番近い国だ。我々は社会主義に向かなかつた。

・「預言者、郷里に容れられず」

=====

米原万里の「愛の法則」 集英社新書

次の世代をつくるに当たって、オスは「質」を担いながら「量」を追求する。メスは「量」を担いながら「質」を追求する。という分業をして来た。進化の過程で、メスは現状維持の方向に、つまり保守的な方向に働き、オスは現状を変える方向に働いている。環境の激変と言う情報をオスは上手く適応できず、より早く滅びる。

生物が続くと言うのは、単に肉体として続くだけではなく、それまで蓄えて来た様々な情報を次の世代にどんどん伝えて行かなければならない。従って、高等な生物ほど伝えることが多いので長生きをする。「女は本流、男はサンプル」である。

サミットでの同時通訳は、日本の首相が日本語でスピーチすると、まず英語に通訳され、その英語からフランス語、イタリア語、ロシア語、ドイツ語に訳される。他の国は直接その国の言葉に訳される。

ローマ時代の文化はアラブを通じて引き継がれて来た。中世のヨーロッパ人は、特に知識人はアラビア語が必須の教養であった。

日本の同時通訳者の中で一番おもしろくなく個性がないのは英語通訳者である。それは他国語の通訳者が、英語が出来た上で専門の言葉を訳しているから(4)

一つの言葉を突き放してみる事が出来るからである。英語の通訳者は殆ど英語だけである。日本語はウラル・アルタイ語と南太平洋のポリネシア語のハイブリッドであると言われている。

日本の小説「失樂園」は日本経済新聞に毎日掲載され、中年のビジネスマンに圧倒的に人気があった。そこで、中年の男性をターゲットに映画化されたが、「実際に映画館に行ってみたら、シツラケンではなくて、トシマエンでした」これを時間のない中で、同時通訳するのは困難である。特にヨーロッパには、有名な同名の小説が有るので・・・！